

研究概要書：地域の観光力の維持向上に資する ストックマネジメント方策に関する研究

研究代表者名：空港研究部長 大根田 秀明
技術政策課題： 快適で潤いのある生活環境の形成
関係研究部：
研究期間（予定）：平成17年度 ～ 平成19年度
総研究費（予定）：約40百万円

1. 研究の概要

本研究は、プロジェクト研究「地域資源・交通拠点等のネットワーク化による国際観光振興方策に関する研究」（平成16～18年度：平成15年12月第3分科会で事前評価）の一部に位置づけられるものであり、地域づくりの一環として様々な形でなされてきた社会資本整備が、地域に観光客を惹きつける魅力（＝観光力）にどのような影響を与えたかについて他の諸要素とともに解明し、その維持向上に資するストックマネジメント（社会資本整備・利活用）のあり方について提言することを目的にしたものである。

（1）研究の成果目標（アウトプット目標）

地域の観光力の判断・計測手法
観光力を維持向上させるための方策
観光地タイプ別ストックマネジメント手法

（2）研究の成果の活用方針（アウトカム目標）

本研究の成果より、地域固有の魅力を活かした観光地域づくり、あるいは新たな地域の魅力の創造を通じて、住民にとって真に誇れる美しい地域づくりの実現と同時に観光客の増加・観光消費の増大が図られ、地域の活性化やインバウンド増加など国際競争力の強化に資するものである。

（3）研究内容

対象地の選定と全国著名観光地における位置付けの分析
ワーキンググループの検討により、研究対象とする観光地8ヶ所程度を選定する。対象の選定にあたっては、

- ・一定の集客力を有するわが国を代表する観光地
- ・観光地としてのある程度の歴史を有し、発展・展開過程が追えるもの

という条件を満たすものとする。なお、対象地が全国の著名観光地の中でどのように位置付けられるかを、諸データ（集客人数、エリア面積、著名資源の種別、宿泊施設規模、市場近接性等）の因子分析により把握する。

ケーススタディ

上記選定された対象地について、観光地としてどのような変遷過程をたどってきたか、あるいはどのような整備が観光的魅力にどのような影響を与えたのかを、以下の手順に基づき分析する。

1) 観光地としての発展過程の把握

関係者ヒアリング、文献資料の収集により、観光地としての地域の発展過程を観光地内

部、周辺地域、社会的背景（発生サイド）等の事象に分けて整理する。これより、対象地が有する観光地の魅力の構成要素を時系列で整理するとともに、観光地の発展に何らかの影響を与えた社会資本整備を抽出する。

2) 社会資本整備による影響のフレームの構成

上記分析を踏まえ、社会資本整備による影響のフレームを時系列で設定する。設定される項目は観光客の変化（来訪者数、行動特性等）、空間の変化（景観等）、民間事業者の動向（新規開発等）、地域への波及（経済波及、住民意識の変化等）などであり、それぞれの相互連関について関係者アリング、文献、新聞記事等に基づき体系化を行う。

3) 影響を計測する指標の計測・推計手法の検討

前項の各項目について指標を設定、計測・推計を各種調査より行う。それぞれ計測手法については、既存研究等を参考としながら、アンケート調査、ヒアリング調査、統計資料等の分析などを適宜実施するが、特に、観光的魅力の推計についてはワーキンググループでの検討により手法を検討し、観光行動の原論などに照らしあわせ定性的に判断する。

4) 観光地の魅力に与える影響の分析

以上より、社会資本の整備によって観光地の空間がどのように変化したか（直接的な空間の変化）、またその変化を契機としてどのような周辺整備・開発が実施されたか（間接的な空間の変化）、さらには観光者の行動や意識にどのような変化が見られたか（観光行動の変化）といった影響の波及について関連を分析し、1)において抽出した時系列の観光地の魅力要素は、どのような波及の過程を経て変化したかについて考察する。

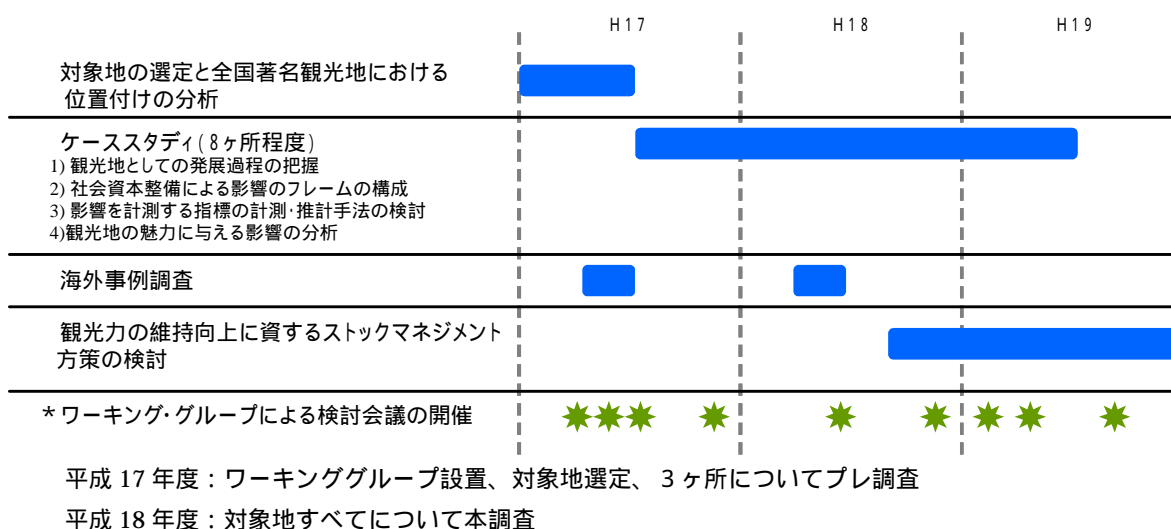
海外事例調査

同様の見地から、海外における観光地事例調査を行う。現時点では、様々な観点から観光資源の利活用に取り組んでおり、外国人観光客受け入れランキング上位に位置するイギリス・ドイツを調査対象地に予定。また、視点としては、社会資本が観光地に与える影響が明確になった時点での、事業実施上の対応や制度的な仕組みづくりなどである。

観光力の維持向上に資するストックマネジメント方策の検討

前項までを踏まえ、地域の観光力の維持向上に資する社会資本の利活用方策（整備実施段階（計画・デザイン等）、整備実施後の対応等）について検討する。

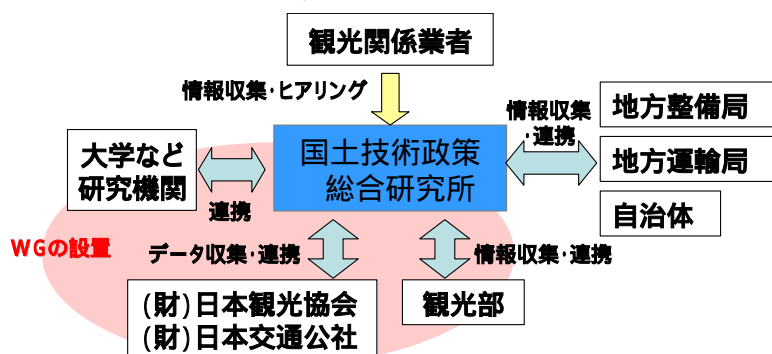
（４）年度計画



平成 19 年度：とりまとめ

(5) 研究実施体制

関係研究部、学識経験者、本省観光部等と連携を図りつつ推進する。また、ケーススタディについては、若手学識経験者によるワーキンググループを立ち上げ、地元大学、自治体等と連携を取りながら研究を進める。



2. 研究の背景

平成 15 年度に入り、「観光立国懇談会報告書（平成 15 年 4 月）」、「美しい国づくり政策大綱（平成 15 年 7 月）」が相次いでまとめられ、「観光」「美しい国づくり」といった新たな切り口で 21 世紀の国づくりに向けての政策の向かうべき方向が示された。また、同年策定された「観光立国行動計画」においては、「日本の魅力・地域の魅力の維持、向上および新たな創造」が目標として掲げられている。しかしながら、観光客、中でも特に外客を惹きつける地域の魅力とは何か、またそれはどのようにして維持向上させるべきか、ということが明確になっておらず、加えて、社会資本整備がそれらに及ぼす影響や、効果的な整備手法についても提示されていない。そのため、短期的に観光客の量的増大を行うことに傾注し、結果的に地域の固有の資源の魅力を低減させる、あるいは地域性を失うなど観光地としての魅力を低減させることを引き起こしかねない。

こうした背景に基づき、本研究は観光地を「消費」することなく、また観光客のみならず地域住民にとっても真に誇れる美しく快適な地域を形成する*ために、今後の社会資本の利活用のあり方を提示するものである。

* サステイナブル・ツーリズム：元来は観光客増大に伴って環境の破壊、観光的魅力の低減が引き起こされ、結果として地域が疲弊するといったケースから生じた考え方。

3. 関連研究の状況（研究マップ参照）

観光を構成する各要素（観光主体（心理・行動）、観光資源、観光施設、観光交通、観光情報等）の現象分析については、幅広い分野で分析が行われている。特に、観光交通の需要分析に関する研究は盛んであるが、地域の魅力向上という点が課題として挙げられている。また、観光周遊行動について流動を表現するモデルの構築や、道路整備等によって観光周遊行動にどのような影響を与えるかの分析を行っているもの多くみられるが、観光的魅力は所与のものとして扱っている場合が多く、またその計測については入込客数（有

料施設の入場者数など計測可能な数値を加算するなど、信頼性は低い)や観光施設数などを用いて設定、あるいは発生交通量から推計値として算出するものなどがほとんどである。そのため以下の2つの観点から、観光的魅力の増進のための方策検討を行うには不十分であると考えられる。

対象の本質的な価値と、実際の観光行動との間のギャップ

観光現象を誘発する本質的な対象の観光的価値(美、珍、奇、真、贅、・・・)は、文化的な蓄積の元にある程度一定のものとして捉えられるが、観光客は事前の情報(認識・イメージ)、訪問目的、訪問形態・回数などによって自由度の高い行動選択を行っている。したがって、実際の観光行動が対象の本質的な価値を直接反映するとは必ずしも言い切れず、各地域の魅力度を客観的に判定する手法、ないしは仕組みの開発が必要である。

対象の質的变化と観光行動の発生間のタイムラグ

地域の(観光的)価値は空間の形成やサービスの発生と同時に価値として定着するのではなく、ある程度の時間を経て価値が成立・伝搬、活動が発生・定着すると考えられる。そのため、時系列で変化を捉えていく必要がある。しかしながら、計測手法上の課題もあり既存研究では多くがある時間断面での計測にとどまっており、時間の経過については検討されていない。

また、佐野ら、寺井らの研究は、観光地における大規模開発が地域に与えたインパクトについて影響の相関図等を用いて指標を設定、計測しており、手法的には本研究と共通しているが、観光客の動向の変化、地域への経済波及等の分析にとどまっており、既存観光地・観光資源の魅力が直接・間接的にどのように変化したかについては言及されていない。

「地域の観光力の維持向上に資するストックマネジメント方策の構築に関する研究」研究マップ

課題名

対象地の選定と全国著名観光地における位置付けの分析

ケーススタディ

- 1．観光地としての発展過程の把握
- 2．社会資本整備による影響のフレームの構成
- 3．影響を計測する指標の計測・推計手法の検討
- 4．観光地の魅力に与える影響の分析

海外事例調査

観光力の維持向上に資するストックマネジメント方策の検討

		現状(現象)把握	現象分析	手法開発	政策化
観光の主体 (心理・行動)					
観光 対象	観光資源				
	観光施設・サービス				
手段	交通				
	情報				
地域経営					

かなり研究が進んでいる研究領域

 ほとんど研究が進んでいない研究領域

いくらか研究が進んでいる研究領域

 国総研で過去に取り組んできた研究領域